

平成20年3月期 第3四半期財務・業績の概況

平成20年2月8日

上場会社名 日本新薬株式会社 上場取引所 東証・大証（各1部）
 コード番号 4516 URL <http://www.nippon-shinyaku.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長 (氏名) 前川 重信
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員 経理・財務部長 (氏名) 桜井 太郎 TEL (075) 321-9114

(百万円未満切捨て)

1. 平成20年3月期第3四半期の連結業績 (平成19年4月1日 ~ 平成19年12月31日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第3四半期	44,017	4.8	5,231	40.8	5,986	44.4	3,430	53.7
19年3月期第3四半期	41,992	0.8	3,716	1.5	4,145	4.6	2,232	△4.1
19年3月期	56,320	-	5,220	-	5,290	-	2,899	-

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
20年3月期第3四半期	50	69	-	-
19年3月期第3四半期	32	87	-	-
19年3月期	42	73	-	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
20年3月期第3四半期	102,523	77,143	75.1	1,138	15
19年3月期第3四半期	102,638	75,466	73.4	1,112	34
19年3月期	104,872	76,213	72.5	1,123	56

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年3月期第3四半期	2,163	△1,253	△1,778	10,444
19年3月期第3四半期	2,349	△3,517	△2,053	10,627
19年3月期	4,200	△4,259	△2,448	11,312

2. 配当の状況

	1株当たり配当金
(基準日)	第3四半期末
	円 銭
平成19年3月期第3四半期	—
平成20年3月期第3四半期	—

3. 平成20年3月期の連結業績予想(平成19年4月1日～平成20年3月31日) 【参考】

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	57,500	2.1	5,600	7.3	6,200	17.2	3,500	20.7	51	73

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無
(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

通期連結業績予想につきましては、平成19年11月12日の中間決算公表時と変更はありません。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

[売上高]

当第3四半期（平成19年4月1日から平成19年12月31日まで）の連結売上高は440億1千7百万円と対前年同四半期比4.8%の増収となりました。

医薬品事業においては、主力品目である非ステロイド性鎮痛・抗炎症剤「ハイペン」が大きく伸長、7月に口腔内崩壊錠を発売した粘膜防御性胃炎・胃潰瘍治療剤「ガスロンN」やアレルギー性鼻炎治療剤「バイナス」も伸長しました。一方、前立腺肥大症治療剤「エビプロスタット」、頻尿治療剤「ブラダロン」が競合品の伸長等の影響を受け伸び悩みました。また、工業所有権等収益や合成抗菌剤「プルリフロキサシン」原薬の売上も伸長しました。その結果、売上高は359億1千7百万円と対前年同四半期比4.3%の増収となりました。

機能食品事業においては、健康食品素材は伸び悩みましたが、品質安定保存剤は堅調に推移、たん白製剤はラインアップの強化と販売価格の引き上げにより売上が伸長し、売上高は80億9千9百万円と対前年同四半期比7.0%の増収となりました。

[利益]

費用面では、原料価格の上昇により、売上原価率は45.3%と前年同四半期に比べ1.1ポイント上昇しました。販売費及び一般管理費は、研究開発費ならびに諸経費が減少し、前年同四半期に比べ8億9千6百万円減少しました。その結果、当四半期の営業利益は52億3千1百万円と対前年同四半期比40.8%の増益となりました。また、当四半期の経常利益は、営業外収益の増加により59億8千6百万円と対前年同四半期比44.4%の増益、当四半期純利益は34億3千万円と対前年同四半期比53.7%の増益となりました。

[研究開発の状況]

国内では、吸入ステロイド剤「NS-126」がアレルギー性鼻炎治療剤として承認申請中です。また、昨年7月に販売提携したノーベルファーマ株式会社開発の低用量ピル「IKH-01」も月経困難症治療剤として申請中です。癌性疼痛治療剤「NS-315（一般名：塩酸トラマドール）」については第三相追加臨床試験を、アルコール依存症治療剤「NS-11（一般名：アカンプロセート）」については第二相試験を実施中です。ファーマオン社（米国）から導入した骨髄異形成症候群治療剤「NS-17（一般名：アザシチジン）」と自社開発の肺高血圧症治療剤「NS-304」については第一相試験を実施中です。

海外では、合成抗菌剤「プルリフロキサシン」について、韓国で導出先の柳韓洋行社が昨年未承認を得ました。また、米国では導出先のオプティマー社により第三相試験が実施されています。「NS-304」については欧州で第二相試験を実施中です。イノバイブ社（米国）へ導出した慢性骨髄性白血病治療剤「NS-187」については第一相試験を実施中です。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

資産：前会計年度末に比べ受取手形及び売掛金、有価証券、棚卸資産等が増加しましたが、現金及び預金、投資有価証券、長期前払費用等が減少しました。総資産は前会計年度末に比べ23億4千9百万円減少し、1,025億2千3百万円となりました。

負債：前会計年度末に比べ支払手形及び買掛金等が増加しましたが、賞与引当金、繰延税金負債、長期借入金等が減少しました。負債は前会計年度末に比べ32億8千万円減少し、253億7千9百万円となりました。

純資産：株主資本は前会計年度末に比べ24億9千1百万円増加し、693億9千1百万円となりました。評価・換算差額等は前会計年度末に比べ15億6千4百万円減少し、76億5百万円となりました。純資産は前会計年度末に比べ9億3千万円増加し、771億4千3百万円となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当四半期末の現金及び現金同等物の残高は、前会計年度末に比べ8億6千8百万円減少し、104億4千4百万円となりました。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

21億6千3百万円の収入となりました。主な内訳は、収入項目では税金等調整前四半期純利益59億8千6百万円、減価償却費20億2千7百万円、支出項目では法人税等の支払額22億2千9百万円、棚卸資産の増加13億2百万円、売上債権の増加12億6千6百万円、その他引当金の減少12億6千万円です。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

12億5千3百万円の支出となりました。主な内訳は、収入項目では投資有価証券の償還・売却による収入16億8千3百万円、支出項目では投資有価証券の取得による支出16億1千8百万円、有形固定資産の取得による支出13億7千万円です。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

17億7千8百万円の支出となりました。長期借入金の返済、配当金の支払等によるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期の業績は概ね順調に推移しており、通期連結業績予想につきましては、平成19年11月12日の中間決算公表時と変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

該当事項はありません。

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結損益計算書

(単位 百万円)

区分	前連結第3四半期 (平成18. 4. 1 から 平成18. 12. 31まで)	比率 (%)	当連結第3四半期 (平成19. 4. 1 から 平成19. 12. 31まで)	比率 (%)	増減	〈参考〉 前連結会計年度 (平成18. 4. 1 から 平成19. 3. 31まで)
売上高	41,992	100.0	44,017	100.0	+2,025	56,320
売上原価	18,561	44.2	19,960	45.3	+1,399	25,115
返品調整引当金繰入額	△3	△0.0	3	0.0	+6	△1
売上総利益	23,434	55.8	24,053	54.7	+619	31,206
販売費及び一般管理費	19,717	46.9	18,821	42.8	△896	25,985
(内、研究開発費)	(6,324)	(15.0)	(5,632)	(12.8)	(△692)	(8,200)
営業利益	3,716	8.9	5,231	11.9	+1,515	5,220
営業外収益	851	2.0	1,159	2.6	+308	986
営業外費用	422	1.0	405	0.9	△17	917
経常利益	4,145	9.9	5,986	13.6	+1,841	5,290
税金等調整前四半期 (当期) 純利益	4,145	9.9	5,986	13.6	+1,841	5,290
法人税、住民税及び 事業税	876	2.1	1,593	3.6	+717	1,969
法人税等調整額	1,029	2.5	958	2.2	△71	413
少数株主利益	6	0.0	3	0.0	△3	8
四半期(当期) 純利益	2,232	5.3	3,430	7.8	+1,198	2,899

(2) 四半期連結貸借対照表

(単位 百万円)

区分	前連結 第3四半期末 (平成18. 12. 31)	比率 (%)	当連結 第3四半期末 (平成19. 12. 31)	比率 (%)	(参考) 前連結 会計年度末 (平成19. 3. 31)	比率 (%)	対前連結 会計年度末 増減
資産の部	102,638	100.0	102,523	100.0	104,872	100.0	△2,349
流動資産	49,772	48.5	53,197	51.9	51,849	49.4	+1,348
現金及び預金	10,187		8,025		10,893		△2,868
受取手形及び売掛金	27,843		29,460		28,194		+1,266
有価証券	1,099		3,199		1,199		+2,000
棚卸資産	8,546		10,072		8,770		+1,302
繰延税金資産	893		943		1,558		△615
その他	1,202		1,496		1,233		+263
貸倒引当金	△0		△0		△0		△0
固定資産	52,865	51.5	49,325	48.1	53,023	50.6	△3,698
有形固定資産	21,006	20.5	20,689	20.2	20,925	20.0	△236
建物及び構築物	9,488		9,153		9,667		△514
土地	8,173		8,172		8,173		△1
その他	3,344		3,362		3,084		+278
無形固定資産	173	0.2	274	0.3	186	0.2	+88
投資その他の資産	31,685	30.8	28,362	27.6	31,912	30.4	△3,550
投資有価証券	23,781		20,835		24,130		△3,295
繰延税金資産	45		55		50		+5
投資不動産	1,409		1,365		1,399		△34
長期前払費用	5,406		4,780		5,314		△534
その他	1,081		1,368		1,145		+223
貸倒引当金	△39		△43		△128		+85
資産合計	102,638	100.0	102,523	100.0	104,872	100.0	△2,349

(単位 百万円)

区分	前連結 第3四半期末 (平成18. 12. 31)	比率 (%)	当連結 第3四半期末 (平成19. 12. 31)	比率 (%)	(参考) 前連結 会計年度末 (平成19. 3. 31)	比率 (%)	対前連結 会計年度末 増減
負債の部	27,171	26.5	25,379	24.8	28,659	27.3	△3,280
流動負債	12,384	12.1	13,199	12.9	14,129	13.4	△930
支払手形及び買掛金	4,164		4,872		4,050		+821
短期借入金	50		30		30		—
一年内返済予定長期借入金	1,204		1,183		1,203		△20
未払金	3,262		3,061		3,429		△368
未払法人税等	265		719		1,382		△663
賞与引当金	1,174		1,176		2,356		△1,180
返品調整引当金	8		14		10		+4
その他	2,253		2,142		1,667		+475
固定負債	14,786	14.4	12,179	11.9	14,530	13.9	△2,351
長期借入金	1,524		340		1,224		△884
繰延税金負債	3,511		2,568		3,627		△1,059
退職給付引当金	9,481		8,970		9,363		△393
その他	269		300		314		△14
純資産の部	75,466	73.5	77,143	75.2	76,213	72.7	+930
株主資本	66,245	64.5	69,391	67.7	66,900	63.8	+2,491
資本金	5,174	5.0	5,174	5.0	5,174	4.9	—
資本剰余金	4,440	4.3	4,441	4.3	4,440	4.2	+1
利益剰余金	58,452	57.0	61,670	60.2	59,119	56.4	+2,551
自己株式	△1,821	△1.8	△1,894	△1.8	△1,834	△1.7	△60
評価・換算差額等	9,078	8.9	7,605	7.4	9,169	8.7	△1,564
その他有価証券評価差額金	9,079	8.9	7,607	7.4	9,168	8.7	△1,561
繰延ヘッジ損益	0	0.0	0	0.0	0	0.0	+0
為替換算調整勘定	△0	△0.0	△3	△0.0	0	0.0	△3
少数株主持分	142	0.1	147	0.1	143	0.2	+4
負債、純資産合計	102,638	100.0	102,523	100.0	104,872	100.0	△2,349

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

区分	前連結第3四半期 (平成18.4.1から 平成18.12.31まで)	当連結第3四半期 (平成19.4.1から 平成19.12.31まで)	〈参考〉 前連結会計年度 (平成18.4.1から 平成19.3.31まで)
	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
1 税金等調整前四半期(当期)純利益	4,145	5,986	5,290
2 減価償却費	2,080	2,027	2,750
3 退職給付引当金の増減額(減少:△)	△498	△393	△615
4 その他引当金の増減額(減少:△)	△1,080	△1,260	191
5 受取利息及び受取配当金	△295	△359	△335
6 支払利息	32	22	41
7 有価証券売却益	—	△149	△4
8 売上債権の増減額(増加:△)	△2,996	△1,266	△3,347
9 棚卸資産の増減額(増加:△)	664	△1,302	441
10 その他流動資産の増減額(増加:△)	174	△265	83
11 仕入債務の増減額(減少:△)	88	821	△27
12 未払消費税等の増減額(減少:△)	67	△15	65
13 その他流動負債の増減額(減少:△)	817	179	380
14 その他	△117	31	△11
小計	3,082	4,056	4,902
15 利息及び配当金の受取額	293	358	335
16 利息の支払額	△32	△22	△41
17 法人税等の支払額	△993	△2,229	△995
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,349	2,163	4,200

区分	前連結第3四半期 (平成18. 4. 1から 平成18. 12. 31まで)	当連結第3四半期 (平成19. 4. 1から 平成19. 12. 31まで)	〈参考〉 前連結会計年度 (平成18. 4. 1から 平成19. 3. 31まで)
	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1 定期預金の預入による支出	△70	△70	△140
2 定期預金の払戻による収入	130	70	180
3 有価証券の償還による収入	300	400	500
4 投資有価証券の取得による支出	△609	△1,618	△1,610
5 投資有価証券の償還・売却による収入	1,016	1,683	1,519
6 有形固定資産の取得による支出	△1,079	△1,370	△1,409
7 無形固定資産の取得による支出	△25	△140	△53
8 貸付けによる支出	△7	△142	△7
9 貸付金の回収による収入	86	143	98
10 その他投資への支出	△3,268	△210	△3,346
11 その他	10	—	10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,517	△1,253	△4,259
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
1 短期借入金の増減額(減少:△)	20	—	—
2 長期借入金の返済による支出	△942	△903	△1,243
3 親会社による配当金の支払額	△686	△815	△747
4 自己株式の取得による支出	△444	△61	△457
5 その他	0	1	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,053	△1,778	△2,448
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	94	0	66
V 現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△3,125	△868	△2,440
VI 現金及び現金同等物の期首残高	13,753	11,312	13,753
VII 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	10,627	10,444	11,312

(4) セグメント情報

① 事業の種類別セグメント情報

前連結第3四半期(平成18年4月1日から平成18年12月31日まで)

	医薬品 (百万円)	機能食品 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
① 外部顧客に対する売上高	34,426	7,566	41,992	—	41,992
② セグメント間の内部売上高又は振替高	2	—	2	(2)	—
計	34,428	7,566	41,994	(2)	41,992
営業費用	30,783	7,494	38,277	(2)	38,275
営業利益	3,645	71	3,716	—	3,716

当連結第3四半期(平成19年4月1日から平成19年12月31日まで)

	医薬品 (百万円)	機能食品 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
① 外部顧客に対する売上高	35,917	8,099	44,017	—	44,017
② セグメント間の内部売上高又は振替高	1	—	1	(1)	—
計	35,919	8,099	44,018	(1)	44,017
営業費用	30,717	8,068	38,786	(1)	38,785
営業利益	5,201	30	5,231	—	5,231

前連結会計年度(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

	医薬品 (百万円)	機能食品 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
① 外部顧客に対する売上高	46,541	9,778	56,320	—	56,320
② セグメント間の内部売上高又は振替高	2	—	2	(2)	—
計	46,544	9,778	56,323	(2)	56,320
営業費用	41,247	9,855	51,102	(2)	51,100
営業利益又は営業損失(△)	5,297	△76	5,220	—	5,220

(注) 1. 事業区分は、販売方法および製品の種類、性質、製造方法の類似性を考慮して区分しております。

2. 事業区分に属する主要な製品

事業区分	主要製品名
医薬品事業	泌尿器官用薬剤、炎症・アレルギー用薬剤、血液がん用薬剤、循環器系及び代謝性薬剤、消化器官用薬剤
機能食品事業	調味・香辛料、健康食品素材、品質安定保存剤、たん白製剤、除菌・洗浄剤、小麦製品

② 所在地別セグメント情報

全セグメントの売上高の合計額に占める本邦の割合が90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

③ 海外売上高

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、その記載を省略しております。

主力製品売上高

(単位:百万円)

平成20年2月8日
日本新薬株式会社

製品名	薬効	第3四半期				通期	
		H19年 3月期	H20年 3月期	前年同期 増減率	進捗率	H19年 3月期	H20年 3月期(予)
ハイペン	非ステロイド性鎮痛・抗炎症剤	4,147	5,025	21.2%	78.5%	5,383	6,400
エビプロスタット	前立腺肥大症治療剤	4,659	4,391	△ 5.7%	78.4%	5,892	5,600
ガスロンN	粘膜防御性胃炎・胃潰瘍治療剤	2,877	3,178	10.4%	79.5%	3,653	4,000
セレクトール	高血圧・狭心症治療剤 腎実質性高血圧症治療剤	3,052	2,929	△ 4.0%	77.1%	3,855	3,800
ブラダロン	頻尿治療剤	3,042	2,746	△ 9.7%	78.5%	3,842	3,500
エストラサイト	前立腺癌治療剤	2,294	2,346	2.3%	80.9%	2,922	2,900
セファドール	抗めまい剤	2,317	2,303	△ 0.6%	79.4%	2,938	2,900
キロサイド	癌多剤併用療法代謝拮抗剤 再発又は難治性急性白血病治療剤	2,119	2,143	1.1%	82.4%	2,697	2,600
レフトーゼ	出血抑制消炎酵素剤	1,646	1,517	△ 7.8%	75.9%	2,156	2,000
アズノールうがい液	アズレン含嗽液	1,210	1,417	17.1%	83.4%	1,633	1,700
バイナス	アレルギー性鼻炎治療剤	811	1,093	34.8%	43.7%	1,707	2,500
グリコラン	経口糖尿病用剤	670	736	9.8%	73.6%	867	1,000
オークル	抗リウマチ剤	739	605	△ 18.1%	86.4%	916	700
オドリック	ACE阻害剤	663	565	△ 14.9%	80.7%	796	700
リボスチン点眼液	抗アレルギー点眼液	459	326	△ 28.8%	27.2%	1,371	1,200
リボスチン点鼻液	抗アレルギー点鼻液	276	234	△ 15.0%	39.0%	697	600
工業所有権等収益		153	680	343.3%	75.6%	856	900
プルリフロキサシン原薬		800	909	13.6%	64.9%	1,201	1,400
医薬品計		34,426	35,917	4.3%	75.5%	46,541	47,600
機能食品計		7,566	8,099	7.0%	81.8%	9,778	9,900
売上高		41,992	44,017	4.8%	76.6%	56,320	57,500

製品開発状況

平成20年2月8日現在
日本新薬株式会社

<国内開発状況>

開発段階	治験 No. (一般名)	領域分類	適 応	オ リ ジ ン	開 発
申請中	NS-126	炎症・アレルギー系	アレルギー性鼻炎	導入：久光製薬 (エスエス製薬)	自社
申請中	IKH-01	その他	月経困難症 (子宮内膜症に伴う)	導入： ノーベルファーマ	販売提携
P III	NS-315 (塩酸トラマトール)	炎症・アレルギー系	癌性疼痛 (非麻薬性鎮痛剤)	導入： グリュネター社 (独)	自社
P II	NS-126	炎症・アレルギー系	気管支喘息	導入：久光製薬 (エスエス製薬)	自社
P II	NS-11 (アカンプロセート)	その他	アルコール依存症	導入： メルクサンテ社(仏)	自社
P I	NS-17 (アサシジン)	血液癌	骨髄異形成症候群	導入： ファーマオン社(米)	自社
P I	NS-304	循環代謝系	肺高血圧症	自社	自社

<海外開発状況>

開発段階	治験 No. (一般名)	領域分類	適 応	オ リ ジ ン	開 発
発売準備中	NM441 (プリフロキサシ)	感染症	合成抗菌剤	自社	導出： 柳韓洋行社(韓)
P III					導出： オプティマー社(米)
P II	NS-304	循環代謝系	肺高血圧症	自社	自社：欧州
P I	NS-187	血液癌	慢性骨髄性白血病	自社	導出： イバイク社(米)

製品開発状況・補足資料

平成20年2月8日現在
日本新薬株式会社

申請中	
NS-126	1日1回投与の吸入ステロイド剤で、アレルギー性鼻炎について2006年12月に承認申請した。
IKH-01	一相性低用量ピル（黄体ホルモンと卵胞ホルモンの混合ホルモン剤）で、欧米では子宮内膜症に伴う月経困難症の第一選択薬として広く使用されている。国内では、ノーベルファーマ社により開発され、2006年10月に申請。2007年7月販売提携契約締結。
フェーズⅢ	
NS-315 (塩酸トマドール)	グリュネンター社(独)から導入した非麻薬性の経口鎮痛剤で、世界100カ国以上で販売されている。NSAIDsとモルヒネの中間に位置する鎮痛剤として、癌性疼痛を対象にPⅢ試験終了。申請前相談での指摘により追加臨床試験実施中。
フェーズⅡ	
NS-126	気管支喘息についてPⅡ a 試験終了。
NS-11 (アカンプロセト)	2003年メルクサンテ社(仏)から導入したアルコール依存症治療剤で、既に欧米で発売済み。国内ではPⅡ試験実施中。
フェーズⅠ（国内） フェーズⅡ（海外）	
NS-304	自社開発したプロドラッグ型経口剤で、活性代謝物が長時間血中に持続し、強力かつ選択的なPGI ₂ アゴニスト活性を示す。肺高血圧症治療剤として、欧州医薬品局よりオーファン指定済み。欧州でPⅡ試験、国内でPⅠ試験を実施中。
フェーズⅠ	
NS-187	グリベック耐性変異体Bcr-ablチロシンキナーゼとLynチロシンキナーゼを強力に阻害、グリベック耐性にも奏効する慢性骨髄性白血病治療剤として開発。2005年末にイノバイブ社(米)へ導出。PⅠ試験実施中。
NS-17 (アザシジン)	2006年ファーミオン社(米)から導入した骨髄異形成症候群（MDS）治療剤で、米国で第一選択薬として用いられている。全てのMDSサブタイプに効果が認められ、白血病（AML）への転化を遅らせる。作用機序は、血液形成細胞DNAのメチル化阻害。昨年10月よりPⅠ試験を開始。